

【皮下DLd既治療①1～2コース目減量・休薬・中止基準】

N Engl J Med 375:1319-1331, 2016.

減量	ダラキューロ	レブラミド
開始量	1800mg/body	25mg/body/日
1段階	減量しない	15mg/body/日
2段階		10mg/body/日
3段階		5mg/body/日

有害事象	Grade	用量調整
注入に伴う反応	3	3回発現した場合、ダラキューロ中止
	4	ダラキューロ中止
好中球数減少		
1回目の出現で他の毒性がない	3	Grade2以下になるまで休薬し、同量で再開
1回目の出現で他の毒性があり	3	Grade2以下になるまで休薬し、レブラミド1段階減量して再開
2回目以降の出現	3	Grade2以下になるまで休薬し、レブラミド1段階減量して再開
血小板数減少 血小板数3万未満		血小板数3万以上になるまで休薬し、レブラミド1段階減量して再開
1回目の出現で他の毒性がない	3	Grade2以下になるまで休薬し、同量で再開
1回目の出現で他の毒性があり	3	Grade2以下になるまで休薬し、レブラミド1段階減量して再開
2回目以降の出現	3	Grade2以下になるまで休薬し、レブラミド1段階減量して再開
Grade3以上の非血液毒性		ダラキューロ休薬
※下記の場合は除く		
・制吐療法に反応する悪心・嘔吐	3≦	
・止瀉薬に反応する下痢	3≦	
・ベースライン時に認められていた、又は最終投与後7日未満持続するGrade 3の疲労又は無力症		
レブラミドが原因の毒性	3≦	Grade2以下になるまで休薬し、レブラミド1段階減量
※好中球数減少と血小板数減少を除く		